

[03_06]九州大学大型計算機センター広報 : 3(6)

<https://doi.org/10.15017/1467971>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (6), pp.1-70, 1970-12-18. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

利 用 者 の 声

既に東大センターでは、各研究分野固有のライブラリーが多数開発されて（結晶解析コード、原子核反応コード等々）良く利用されているようですが、九州地区の者がそれを利用するのは非常に不便です。

私のまわりでも利用希望が非常に強いので、一部を九大センター用書き換えようと思っています。また、センターでプログラム指導をしておりますと、個人的に東大ライブラリーを書き換えている人を時折みかけます。

このような作業を、九大のプログラムライブラリ委員会では既に始めておられるのでしょうか。

東大ライブラリーの開発に私も少々タッチいたしましたが、東大では初めに、既に作られ利用度の高そうなコードを全国的に調査し、適当な人に委嘱して東大センター用書き換え、その後も利用価値の高いものは次々に組み込んでいます。

その際、書き換え・開発をする人には特別の課題番号を与え、特別速くデバッグランをやってもらいました。

九大ではさしあたり「西日本地区の利用者に呼びかけて、東大ライブラリーのうち利用度の高そうなものを調査し、適当な人に頼んでFACOM用書き換える」ことを急がれてはどうでしょうか。

開発用の課題番号が与えられれば、私は至急「原子核反応コード」を移そうと思っていますので、プログラムライブラリ委員会が上記の問題についてどのようにお考えになっているか、お知らせくださいれば幸いに存じます。

（九州大学理学部 上村正康）

◎ 東大センターの結晶解析コード、原子核反応コードなどの他センターで開発登録されているプログラムを、九大センターに移す問題は、ライブラリ委員会当初から議論されてまいりました。

全国共同利用大型計算機センター間の連絡をはかる会議として運用会議がありますが、その時に、あわせてプログラムライブラリ研究会が行なわれており、また各センターの計算機間のプログラムの互換性、即ち言語のコンパビリティの研究会も開かれております。

他人の書いたプログラムを読むことが大変な作業であることは経験のおありの方にはすぐわかっていただけるはずですが、特に他の研究分野の応用プログラムを書き換えることは、その分野の研究者でなければ、ほとんど不可能といえましょう。この意味で上村氏が原子核反応コードの書きかえを進んで申し出られたことを大いに歓迎し、他の分野でも同様な提案がなされることを心から望んでおります。

他センターのライブラリプログラムを九大センターのライブラリのために書き換えることは、

各センターの計算機の仕様の相違から来る技術的問題があり、容易ではありませんが、その他にプログラムの著作権の問題があります。ライブラリプログラムを利用した研究結果の公表は原則として、プログラム名と作成者を明記することが全国の各センターの内規として定めることが申し合わされており、センター間のライブラリプログラムの交換を行なう時にはプログラム作成者の承認を得て行ない、書き換え作業を行なった者の名を明記することが、本年9月18日の共同利用大型計算機センター運用会議で申し合わせられ、ようやくプログラムの交換の態勢が整ったといえましょう。

御承知のとおり、センターにはプログラムライブラリ委員会があり、センターのライブラリに関する種々の事項の審議を行なっていますが、その中にはライブラリの開発収集に関する計画をたてたり、また、計画に従って作業を進めたり（実際にはセンター側、ライブラリ委員会委員、その他センター長から委嘱された人がその作業にあたります）、という仕事が含まれております。

プログラムライブラリ内規にも規定されていますように、このような開発収集に要する計算時間はセンターで負担することになっています。実際には、ライブラリの開発収集の作業を委嘱する場合には、センターから開発用の課題番号を発行して、それを使っていただく、という方法をとっております。

他センターのライブラリプログラムを九大センター用に書き換えてライブラリとして登録するという作業も、ライブラリ開発収集作業の一環として取扱われることになります。

先にも述べましたように、このようなプログラム書き換え作業には、利用者の方々の御協力により進めていくことが必要不可欠だと思われまますので、今後、この種の申し出が数多くなされることを心から望んでおります。 (プログラムライブラリ委員会委員長 工藤昭夫)